

犯罪の事実はない！公安による政治弾圧だ！ 加藤誠二さん無実を堂々と証言 蒲郡駅事件第5回公判



本日、名古屋地裁で蒲郡駅事件第5回公判が開かれ、加藤誠二さんの尋問が行われました。傍聴券獲得の闘いには、早朝であるにもかかわらず、全国からJR総連各単組の仲間、そしてOBの皆さんなど、300名を超える仲間が結集しました。その結果、傍聴席91席中75席を確保することができました。

加藤さんは主尋問で、内部文書を持ち出し、コピーしたことを全面的に否定した上で、内部文書が書庫に保管されていたことや、内部文書それ自体の存在すら知らないこと、そして、書庫の鍵がどこに保管されていたかも知らないこと等を証言し、事件そのものが存在しないことを堂々と証言しました。また、警察の家宅捜索以前に、会社からの事情聴取や、職場で窃盗事件があったという噂すら無かったこと、会社が告訴していた事実などについても全く知らなかったことなどを証言しました。一方、争点となっているDVDの映像については、その日が特段特別な日、記憶にのこる出来事があった日ではなかったことから、何をしたのかはっきりした記憶はないとした上で、映像を見て推測として考えられることを、丁寧に一つひとつ証言しました。また、その日にコピーしたと考えられるものは、自分の組合資料であることも証言しました。

検察の反対尋問は、民事裁判で被告（会社）弁護士が質問したこととほとんど同じで、窃盗したことを証明する本質に迫る質問は一切できませんでした。しかも、「助役席の後ろを通った理由は何か」「警察や検察の取り調べで何で黙秘したのか」等の質問を3回も4回も繰り返すなど、傍聴席の失笑を誘う場面の連続となりました。

公判終了後、報告集會を開催し、最後まで闘い抜くことを全体で確認しました。

次回第6回公判は、1月22日13時30分より、萩原前委員長の証人尋問が行われます。



JR総連武井委員長



檄を受ける加藤誠二さん

次回萩原前委員長の証人尋問決定！